

『大廃業時代の町工場 生き残り戦略』

浜野 慶一(著)
リバネス出版
(2018/10)
1,980円

本書は、NHKやアンビリーバボーなど多数のメディアに取り上げられた、株式会社浜野製作所の代表、浜野 慶一氏の初めての著書です。



vol. 123

Book review

【ご紹介・感想】

株式会社 浜野製作所 代表取締役 浜野 慶一 氏

大学卒業後、都内板橋区の精密板金加工メーカーに就職。創業者・浜野嘉彦氏の死去に伴い、代表取締役に就任。現在は、産学官連携としての電気自動車「HOKUSAI」、深海探査艇「江戸っ子一号」、異業種連携として工場巡りツアー・スミファを主催する「配財プロジェクト」、更にはベンチャー企業を支援する「Garage Sumida」など、多数のプロジェクト事業に取り組んでいる。

ものづくりの街、墨田区。今でこそ、その未来を牽引する町工場である浜野製作所様だが、成長の陰には苦難があった。社長に就任後、近隣の火災により本社兼工場が全焼。残ってくれた従業員も一人だけ。そんな下町の町工場を、危機的状況から如何にして再建できたのかが記されてる。沢山の方々に支えられたことから「お客様、スタッフ、地域」への感謝、還元を経営理念として掲げられており、理念を元に考え行動することがどんなに重要かを再認識できます。

息子が後を継がない町工場、小さな普通の町工場にだって「社長次第」で、明るく元気に働ける会社にできることを教えてくれる、元気・情熱が湧いてくる一冊です。

【以下引用】

・基本的に「経営理念にそぐわないことはやらない」というのが我々の方針です。原点に戻って考え直すための錦の御旗、指標になっているのが経営理念です。…毎日、自分で声を出して唱和することで頭の中に染みこんでいきます。すると経営理念が「自分の仕事の判断基準」になってくるのです。これがいちばん大きな効用です。

・僕の考えでは「次の社長」を用意しておく責任があります。その人選の際、何を大切にするのか…人を大切にしてくれる人がいい。そして会社組織なので、会社を成長させるために努力ができる人…社長というのは、従業員だけでなく、その後ろにいる従業員の家族も預かっているわけですから、会社を成長させられることは大事です。

・お客さんのところへ直接伺って、現場の方からお話を聞いた中で、実際にいちばん困っていたこと、要望が多かったことは何か。それは、「短納期・多品種少量生産」への対応でした。

一倉定先生も「いい会社とか悪い会社とかはない。あるのは、いい社長と悪い社長である。」というように、社長の姿勢次第で会社は廃業寸前にも業界トップにもなりえます。では、浜野社長はどう行動され、今に至るのか。今の経営理念を決めたきっかけや、創業の精神をもう一度振り返り、原点に沿って思い返してみるのはいかがでしょうか。